

平成 30 年度  
埋蔵文化財調査士補  
資格試験  
筆記問題答案用紙  
(I 択一式)

受験番号	氏 名			
B-				

試験日：平成 30 年 8 月 25 日 (土)  
会場：「東京都生協連会館」

公 益 社 団 法 人



日本文化財保護協会

次の設問に対し、A～Dのうち一つだけ記号を選択して解答欄に記入しなさい。

問1 CPDの説明として適正と思われるものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士補は、CPDポイント不足による未更新者であっても要望があれば、特例として調査士試験の受験資格を与えられる。
- B. 埋蔵文化財調査士補のCPDポイントは、5年間で100ポイント以上取得すれば埋蔵文化財調査士になれる。
- C. CPDポイントは、自分で配分表を作成し集計しても良い。
- D. 資格を取得した後に自主的に新しい調査技術、調査成果の習得と考古学研究参加に努めることがCPD制度の目的である。

問1	D
----	---

問2 埋蔵文化財調査士及び士補に関する説明で正しいものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士・士補の受験資格は、大学で考古学を専攻した者でなければならない。
- B. 埋蔵文化財調査士補は、2年実務経験を積み埋蔵文化財調査士になれる。
- C. 埋蔵文化財調査士は、資格取得後5年間でCPDポイントを100ポイント以上、埋蔵文化財調査士補は、50ポイント以上を獲得しなければ資格更新ができない。
- D. 埋蔵文化財調査士・士補の資格は、一度取得すれば自動的に更新される。

問2	C
----	---

問3 労働安全衛生法等に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 労働安全衛生法第6条により都道府県労働局長が5年毎に労働災害防止計画を定めている。
- B. 労働安全衛生法が成立施行された背景は道徳上から当然のことによる。
- C. 労働関係諸法令には安全配慮義務が明文で規定されているものもある。
- D. 災害発生時、事業者が関係法令を過失なく知らなければ責任は問われない。

問3	C
----	---

問4 危険性又は有害性の調査等（リスクアセスメント等）について誤っているものはどれか。

- A. 作業前の段階でリスクを抽出し、重大性、発生可能性の評価結果から重大なリスクに対して適切な対策を実施していく手法である。
- B. 労働安全衛生法では、第28条の2で一般的な作業・設備のリスクアセスメント等について、第57条の3で化学物質のリスクアセスメント等について努力義務が課されている。
- C. リスク低減措置の優先順位は4段階あり、計画段階で措置できるのがよい。
- D. リスクアセスメント等の結果、残留リスクは発生するものである。

問4	B
----	---

問5 墜落災害防止に関する次の記述で法令として誤っているものはどれか。

- A. 2m以上の高さの箇所で作業を行う場合は原則として作業床を設置する。
- B. 単管足場等における手すりの高さは現在80cm以上とされている。
- C. 平成21年法改正で交叉筋かいの隙間からの墜落防止措置が対策された。
- D. 平成27年法改正で注文者が行う安全点検が充実された。

問5	B
----	---

問6 ある発掘現場の架設通路にはこう配のある箇所がある。踏棧その他滑り止めを設けることなく労働者に作業をさせた場合、法令違反となるものはどれか。

- A. 20度のこう配がある通路  
B. 15度のこう配がある通路  
C. 10度のこう配がある通路  
D. 5度のこう配がある通路

問12	A
-----	---

問7 熱中症に関する次の記述で正しいものはどれか。

- A. 熱中症対策には、水分補給をしていれば十分である。  
B. 熱中症は炎天下における屋外作業だけに発生する災害である。  
C. 以前に熱中症になった者は再発する可能性が他に比べて大きいと言われている。  
D. 熱中症で死亡するケースは稀（まれ）である。

問7	C
----	---

問8 文化財保護法にある発掘届を30日前までに提出するものはどれか。

- A. 第92条  
B. 第93条  
C. 第94条  
D. 第99条

問8	A
----	---

問9 理化学的分析を行う場合の方針として、適切なものはどれか。

- A. 考古学調査と理化学的分析は、別々に報告するだけでよい。  
B. 理化学分析は絶対必要なもので、とにかく何でもやっておく。  
C. 分析を出す場合、分析側に遺跡情報は一切知らせず、客観的な分析報告を求める。  
D. 調査側と分析側で協議を行い、目的をもって分析し報告書に反映させる。

問9	D
----	---

問10 調査担当者として発掘調査を運営して行くために、不適切なものはどれか。

- A. 発掘調査期間を最優先に行う。  
B. 行政担当者への報告、打合せを十分に行う。  
C. 調査員間や作業員との日々のコミュニケーションを取る。  
D. 地域周辺への気配りを怠らず、調査を進める。

問10	A
-----	---

- 問 11 これからの埋蔵文化財発掘調査報告書の在り方として適切なものはどれか。
- A. 印刷物500部と高精度PDFと低精度PDFを作成し、活用する。
  - B. 印刷物300部と高精度PDFと低精度PDFを作成し、活用する。
  - C. 印刷物300部と高精度PDFを作成し長期保存すればよい。
  - D. 印刷物としては必要ない。高精度PDFと低精度PDFを作成し、活用する。

問 11	B
------	---

- 問 12 現地調査終了後、遺物の「発見届」を提出するが適切なものはどれか。
- A. 文化庁へ1ヶ月以内
  - B. 都道府県教育委員会へ1ヶ月以内
  - C. 市町村教育委員会へ1週間以内
  - D. 所轄の警察署へ1週間以内

問 12	D
------	---

- 問 13 国内最初に旧石器時代遺跡を予想して発掘を行った遺跡はどこですか。
- A. 北白川遺跡（京都府）
  - B. 丹生遺跡（大分県）
  - C. 岩宿遺跡（群馬県）
  - D. 国府遺跡（大阪府）

問 13	D
------	---

- 問 14 同一遺跡の調査地点による文様差をもとに土器編年を作った遺跡はどこですか。
- A. 姥山貝塚（千葉県）
  - B. 加曾利貝塚（千葉県）
  - C. 諸磯遺跡（神奈川県）
  - D. 陸平貝塚（茨城県）

問 14	B
------	---

- 問 15 昭和12年大量な遺物を調査した弥生時代の代表的遺跡はどこですか。
- A. 登呂遺跡（静岡県）
  - B. 遠賀川遺跡（福岡県）
  - C. 唐古池遺跡（奈良県）
  - D. 志村遺跡（東京都）

問 15	C
------	---

- 問 16 旧石器時代の遺跡で平面的かつ層位的調査を大規模に行った最初の遺跡はどこですか。
- A. 月見野遺跡（神奈川県）
  - B. 白滝遺跡（北海道）
  - C. 野川遺跡（東京都）
  - D. 茂呂遺跡（東京都）

問 16	C
------	---

- 問 17 細石刃文化の遺跡として最初に発掘されたのはどこですか。
- A. 矢出川遺跡（長野県）
  - B. 本ノ木遺跡（新潟県）
  - C. 神子柴遺跡（長野県）
  - D. 小瀬ヶ沢洞窟（新潟県）

問 17	A
------	---





問 29 近世都市遺跡の発掘調査が大きく注目されるきっかけとなったのは次のうちどの遺跡か。

- A. 都立一橋高校遺跡（東京都）
- B. 尾張藩上屋敷遺跡（東京都）
- C. 葛西城跡（東京都）
- D. 紀尾井町遺跡（東京都）

問 29	A
------	---

問 30 近世城郭の石垣修復について正しいものはどれか。

- A. 部分的にでも新たな支えを加えるなどの工法の変更を採ることは許されない。
- B. 強度重視の観点から、すべて新たな石材と取り換えるため、元の石材は遺物として保管する。
- C. 強度重視の観点から、最新の積み方に変更するため、不要になった元の石材は廃棄する。
- D. 極力元の位置に戻すことが望ましいことから、解体前に正確な記録を採る。

問 30	D
------	---

問 31 産業考古学について正しいものはどれか。

- A. 発掘調査を通して近現代の歴史を考える考古学の一分科である。
- B. 近代化を考える目的で成立した日本独自の考古学である。
- C. イギリスで誕生し、特に近代の技術文化の調査研究に重点を置いている。
- D. 全歴史を通して産業の発展を考える考古学の一分科である。

問 31	C
------	---

問 32 発掘調査報告書について正しくない記述はどれか。

- A. 発掘調査報告書には、事実記載と学術的所見、図版・写真などが収録されている。
- B. 発掘調査報告書は、発掘調査時に取得された情報・記録だけにより構成される。
- C. 印刷物・書籍としてだけでなくインターネット上で閲覧できる発掘調査報告書もある。
- D. 発掘調査報告書には、遺構だけでなく遺物の図、写真も掲載されている。

問 32	B
------	---

問 33 地中探査の特徴・方法の説明として正しくない記述はどれか。

- A. 発掘調査と異なり非破壊的な調査方法である。
- B. 地中に発信したレーダー波の反射波により地中の様子を推定する方法がある。
- C. 磁気センサーを用いた探査方法は被熱した遺構や金属物の検出に向いている。
- D. 電気探査は他の手法に比べて簡便だが浅い深度までしか調査できない。

問 33	D
------	---

問 34 遺跡・遺構の図化について正しい記述はどれか。

- A. 発掘調査時点の記録を基準としつつ、調査中および調査後の分析の成果を加味して図化する。
- B. 遺物に関する属性情報とは切り離して作図するべきである。
- C. 統一されたスケールで作成する。
- D. 公式に示されている基準・標準はないので、各自で独自の図化方法を採用すべきである。

問 34	A
------	---

問 35 Excel などによる表形式でのデータ整備において注意すべき点について正しい記述はどれか。

- A. 見やすさを配慮してセルの結合等を行なう。
- B. 同一の情報が連続する場合は個別に入力・表示せずに省略する方がよい。
- C. 一項目につき一数值とする。
- D. 印刷物としての報告書に掲載するための読みやすさをもっとも重視すべきである。

問 35	C
------	---

問 36 デジタル化された計測記録の利点について正しくない記述はどれか。

- A. デジタル化された機材による計測記録は、従来型の機材よりも精度が高いとは限らない。
- B. デジタル化されたデータも、複製を繰り返すと劣化したり変容する場合がある。
- C. デジタル化されたデータの型式や記録媒体は短期間で変更される場合があり得る。
- D. デジタル化されたデータについてもバックアップ、継続的なメンテナンスが不可欠である。

問 36	B
------	---

問 37 発掘調査記録における写真撮影について正しくない記述はどれか。

- A. 記録保存のためのデジタルカメラはフルサイズ・センサー搭載機が望ましいとされる。
- B. 銀塩フィルム・カメラの製造は急速に縮小しており、デジタルカメラへの置換が必須である。
- C. デジタルカメラでは一般的な JPEG 型式だけでなく RAW データを保存するべきである。
- D. 発掘調査に関するあらゆる写真記録は静止画像のみによって行うべきである。

問 37	D
------	---

問 38 発掘調査の情報処理において重要な事柄として正しい記述はどれか。

- A. 発掘調査の情報処理は、調査→整理→報告書と一方向的なものであり、他の発掘調査に反映されることはない。
- B. 発掘調査を改善するためには、記録・情報を相互の参照・利用できるようにすべきである。
- C. 発掘調査の情報処理は一件ごとに完結していれば良い。
- D. 発掘調査の情報処理は調査担当者ごとの独自性が発揮されるべきである。

問 38	B
------	---

問 39 考古学における遺物実測図について正しくない記述はどれか。

- A. 対象となる遺物の状態を精確に計測・記録するもので解釈による部分は含まれない。
- B. 手測りによるほか、写真トレース、3次元計測データを利用する方法がある。
- C. 3次元計測データを利用すると展開図や断面図の作成が容易である。
- D. 写真トレースではレンズ収差等を補正したオルソ画像を利用する。

問 39	A
------	---

問 40 土器の付着顔料の種類と分析法との組み合わせで適切なものはどれか。

- A. 水銀朱(辰砂)の判定には、ガスクロマトグラフを用いる。
- B. ベンガラ(酸化鉄)の判定には、蛍光X線分析装置を用いる。
- C. ベンガラ(酸化鉄)の判定には、X線回折分析装置を用いる。
- D. 水銀朱(辰砂)の判定には、赤外分光分析装置を用いる。

問 40	C
------	---



問 41 赤外分光分析用試料を採取する際に気をつけるべき点はなにか。

- A. 可能な限り量を多く採取する。
- B. できるだけ表面から採取する。
- C. 不純物の少ない場所から採取する。
- D. 広範囲から少しずつ採取し、平均化する。

問 41	C
------	---

問 42 安定同位体比が食物連鎖と関係がある元素はどれか。

- A. 水素 (H)
- B. 炭素 (C)
- C. 窒素 (N)
- D. 酸素 (O)

問 42	C
------	---

問 43 以下の試料で放射性炭素年代測定に不適な試料はどれか。

- A. 縄文時代の土器に付着したアスファルト
- B. たたら製鉄の際の鉄滓
- C. 700℃以上で火葬された人骨
- D. 縄文時代の土器に付着したウルシ

問 43	A
------	---

問 44 ウィグルマッチングについて間違っているのはどれか。

- A. 数十年以上の年輪数があれば、1点分析するよりも年代を絞り込むことができる。
- B. 樹皮が残っていれば、伐採年代を推定することができる。
- C. 辺材が残っており、数十年以上の年輪数があれば、伐採年代を求めることができる。
- D. 較正年代の幅が大きい中世末以降において、年代を絞り込むことができる。

問 44	C
------	---

問 45 同じ地層中から貝と木材が検出されたが、同位体補正を行った年代値が木材の方が約 400 年古かった。考えられる結果はどれか。

- A. 木材はリザーバー効果で値が、400年古くなるので、時代幅はさらに広がる。
- B. 木材は同位体効果で値が400年新しくなるので、木材と貝は同時代の可能性がある。
- C. 貝の方が新しく、木材は古い木材が再堆積した可能性がある。
- D. 貝はリザーバー効果で値が400年古くなるので、木材と貝は同時代の可能性がある。

問 45	D
------	---

問 46 出土遺物の仮保管の注意点として正しくないものはどれか。

- A. ポリエチレン製のチャック付袋は気体を完全には遮断できないので、脱酸素剤を入れても十分な効果は期待できない。
- B. 鉄製品は仮保管中にサビが進んで粉末になってしまうことがあるが、青銅製品は表面に青サビが発生する程度で原形をとどめないほどに粉末になる恐れはない。
- C. 銹着した銅銭の銭銘を仮保管中に確認するために銭を剥がす時に細かく割れてしまった場合、後日の保存処理に支障がないよう破片の紛失防止に努める必要がある。
- D. 水漬けの木製品を仮保管中に計測することがあるが、一般的に「水ぶくれ」状態なので保存処理後の計測値はやや小さくなることが多い。

問 46	B
------	---

問 47 発掘現場で遺物を固定して遺構の一部ごとに取り上げる作業（ここでは以下、「取り上げ」と表記する）について、説明として正しくないものはどれか。

- A. 近年、取り上げた遺物を梱包のまま X 線 CT で観察することが可能となってきたが、一般的に用いられてきた発泡硬質ウレタン樹脂は CT 撮影に支障があるので使用できない。
- B. 取り上げに際して遺構の一部が破壊されることになるので、なるべく破壊の影響が小さくなるよう取り上げの位置や大きさについて事前に検討しておく必要がある。
- C. 水銀朱の散布状況を遺構切り取りによって取り上げる事例があるが、有毒な水銀化合物であることを認識して安全に作業を実施し、取り上げ後も適切に管理する必要がある。
- D. 取り上げは遺物自体の保存だけでなく、遺物の位置情報の保存にも役立つので、現場における位置データを記録しておくことが望ましい。

問 47	A
------	---

問 48 出土遺物の保存処理に要する期間の説明として正しくないものはどれか。

- A. 水浸出土木製品の PEG（ポリエチレン・グリコール）による保存処理には数ヶ月から 1 年超の期間がかかるのが一般的なので、それを見込んだ保存計画を立てるべきである。
- B. 金属製品の中には象嵌や鍍金、異種金属の複合製品など慎重なクリーニングが必要な場合があり、相当長期間を要する顕微鏡下作業となることが多い。
- C. 保存処理点数と処理費用の関係は大きさ、難易度等により単純ではないが、処理点数と処理期間の関係はほぼ単純な正比例関係を示す。
- D. 保存処理にはクリーニングや樹脂含浸等に要する期間ばかりでなく、事前の診断・検討や調査・記録、事後の記録や経過観察などに要する期間も考慮して計画的に実施すべきである。

問 48	C
------	---

問 49 出土遺物のドキュメンテーションの説明として正しくないものはどれか。

- A. 3D スキャナーなどによる 3 次元データの記録は遺物の考古学的調査・研究に役立つばかりでなく、保存処理における可逆性を補う意味も持つのでなるべく実施しておくべきである。
- B. 微小な遺物に関する顕微鏡レベルでの 3 次元データ記録はいくつかの手法で実用段階に達しつつあるので今後は標準的な記録法として定着する見通しである。
- C. 保存処理に際して保存処理担当者によって紙カルテが作られてきたが、現在では全国共通の電子カルテシステムが完成し既に運用されている。
- D. 3D プリンターの実用化が進み、出土遺物の 3 次元立体造形が可能となってきた。今後、単なる複製機能ばかりでなく、拡大・縮小・反転機能なども活かして展示や研究に利用されるものと期待される。

問 49	C
------	---

- 問 50 保存処理が完了した出土遺物の保管と展示・活用に関する注意点として、正しくないものはどれか。
- A. 保存処理した鉄製品をアクリル製の簡易ケースに入れて保管する場合は乾燥剤を入れ、乾燥剤の有効期限をチェックしなければならない。シリカゲルであれば赤色が青色に変化したら交換する必要がある。
  - B. PEG（ポリエチレングリコール）で保存処理した木製品で強度が不足する場合に副木等で補助することがあるが、将来の展示にも差し支えないような副木を前もって用意しておくが良い。
  - C. 保存処理した金属製品を常設展示する場合はエアタイトケースに入れるのが望ましいが、それができないなら定期的に点検して異状を早めに察知するよう努める必要がある。
  - D. 出土遺物の保存処理に関する処理方法や使用薬剤のデータは長期保存し、基本的に報告書等で公開すべきであり、展示に当たってもなんらかの説明が望まれる。

問 50	A
------	---